

令和4年度行政事業レビューシート (文部科学省)

| | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|--|---------|---|--|-----------------|---------|-------------|-------------|--|
| 事業名 | 地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に係る取組支援 | | | 担当部局庁 | 高等教育局 | 作成責任者 | | | | |
| 事業開始年度 | 令和5年度 | 事業終了 (予定)年度 | 令和7年度 | 担当課室 | 医学教育課 | 医学教育課長 伊藤 史恵 | | | | |
| 会計区分 | 一般会計 | | | | | | | | | |
| 根拠法令 (具体的な 条項も記載) | | | | 関係する 計画、通知等 | <ul style="list-style-type: none"> ・経済財政運営と改革の基本方針2022(令和4年6月7日閣議決定) ・新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画(令和4年6月7日閣議決定) ・デジタル田園都市国家構想基本方針(令和4年6月7日閣議決定) ・6年制課程における薬学部教育の質の保証に関するとりまとめ(令和4年8月) | | | | | |
| 主要政策・施策 | | | | 主要経費 | 文教及び科学振興 | | | | | |
| 事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内) | 現在、少子高齢化の進展等の医療環境の変化を背景に地域の医療ニーズ(へき地医療、在宅医療等)への対応が急務となっており、大学における薬剤師養成課程においても、これらに対応した薬学教育プログラムの策定・実施や、地方自治体、関係団体等が連携した取組の充実が求められている。また、本事業の成果を地域の他大学と共有することなどにより、地域に求められる高度な薬剤師の養成に資することを目的としている。 | | | | | | | | | |
| 事業概要 (5行程度以内。別添可) | 本事業では、地域の医療ニーズ(へき地医療、在宅医療等)を踏まえた課題を解決するため、自治体、関係団体等との連携体制を構築し、地域の医療ニーズに合わせた卒後のキャリアパスにつなげていくための薬学教育プログラムの開発するとともに、薬学教育コンテンツの開発等を行う。また、本事業の成果を他大学と共有することを通じ、地域で活躍する高度な薬剤師の養成に取り組む大学を支援する。 【補助率:定額補助】 | | | | | | | | | |
| 実施方法 | 補助 | | | | | | | | | |
| 予算額・ 執行額 (単位:百万円) | 予算 の 状 況 | 当初予算 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度要求 | | | |
| | | 補正予算 | - | - | - | - | - | | | |
| | | 前年度から繰越し | - | - | - | - | 0 | | | |
| | | 翌年度へ繰越し | - | - | - | - | - | | | |
| | | 予備費等 | - | - | - | - | - | | | |
| | | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 201 | | | |
| | 執行額 | 0 | 0 | 0 | - | - | | | | |
| | 執行率(%) | - | - | - | - | - | | | | |
| | 当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) | - | - | - | - | - | | | | |
| 令和4・5年度 予算内訳 (単位:百万円) | 歳出予算目 | 令和4年度当初予算 | 令和5年度要求 | 主な増減理由 | | | | | | |
| | 大学改革推進等補助金 | - | 200 | ※金額は単位未満四者五入して記載していることから、合計が一致しない場合もある。 | | | | | | |
| | 諸謝金 | - | 0.4 | 要求額のうち、「重要政策推進枠」:200百万円 | | | | | | |
| | 委員等旅費 | - | 0.1 | | | | | | | |
| | 庁費 | - | 0 | 地域の医療ニーズを踏まえた課題を解決するための教育プログラムの開発や、薬学教育コンテンツの開発等を行うための経費であり、新規要求。 | | | | | | |
| | 計 | - | 201 | | | | | | | |
| 活動内容 (アクティ ビティ) | 選定大学を対象に、地域の医療ニーズ(へき地医療、在宅医療等)に対応するための薬学教育プログラムの開発等を行い、地域で活躍する高度な薬剤師の養成に取り組む大学を支援する。 | | | | | | | | | |
| 活動目標及び 活動実績 (アウトプット) | 活動目標 | 活動指標 | | 単位 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 4年度 活動見込 | 5年度 活動見込 | |
| | 地域の医療ニーズを踏まえた課題を解決するための教育プログラムの開発等を行い、地域で活躍する高度な薬剤師の養成に取り組む大学を支援する | 医療ニーズを踏まえた地域医療に関する薬学教育プログラムの受講者数(累計) ※令和5年度は開発期間のため、実績は令和6年度から生じる見込み。 | 活動実績 | 人 | - | - | - | - | - | |
| | | | 当初見込み | 人 | - | - | - | - | - | |
| 単位当たり コスト | 算出根拠 | | | 単位 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 4年度活動見込 | | |
| | 執行額/採択件数 (事務費は除く) | | | 単位当たり コスト | 百万円 | - | - | - | - | |
| | | | | 計算式 | 執行額/ 採択件数 | - | - | - | 200百万/10件 | |

| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | 単位 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 中間目標 5年度 | 目標最終年度 7年度 |
|---------------------------|--|---|----|-------|-------|-------|-------------|---------------|
| | 地域医療ニーズを踏まえた教育プログラムを策定・実施し、自治体等との連携体制を構築する | 地域医療ニーズを踏まえた教育プログラムを策定・実施し自治体等との連携体制を構築した大学の数 ※令和5年度は開発期間のため、実績は令和6年度から生じる見込み。 | | 成果実績 | 機関 | - | - | - |
| 目標値 | | | 機関 | - | - | - | 10 | 15 |
| 達成度 | | | % | - | - | - | - | - |

根拠として用いた統計・データ名 (出典)
 成果実績: 補助先からの状況報告(予定)
 目標値: 申請書における自治体、関係団体等との連携体制

| | | | | | |
|---------------------|-------------------------|-----------------------------|---|-----------|---|
| 政策評価、新経済・財政再生計画との関係 | 政策 | 4 個性が輝く高等教育の振興 | | 政策評価書 URL | - |
| | 施策 | 4-1 大学などにおける教育研究の質の向上 | | | |
| | 新経済・財政再生計画改革工程表 2021 | 分野: | - | - | - |
| | | (新経済・財政再生計画改革工程表 2021) URL: | - | - | |
| 取組事項 | 該当箇所 | | - | - | |

事業所管部局による点検・改善

| | 項目 | 評価 | 評価に関する説明 |
|------------------------------|---|--|--|
| 国費投入の必要性 | 事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。 | ○ | 現在、少子高齢化の進展等の医療環境の変化を背景に地域の医療ニーズ(へき地医療、在宅医療等)への対応は急務となっている。大学における薬剤師養成課程においても、これらに対応した薬学教育プログラムの策定・実施や、地方自治体、関係団体等が連携した取組の充実が求められており、当該事業は社会のニーズを反映している。 |
| | 地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。 | ○ | 本事業は、「経済財政運営と改革の基本方針2022」、「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」、「デジタル田園都市国家構想基本方針」、「6年制課程における薬学部教育の質の保証に関するとりまとめ」等に盛り込まれた人材養成を推進するものであり、政策の優先度が極めて高い事業である。国が人材養成を担う大学に対して、財政支援を行いながら協力に推進する必要がある。 |
| | 政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。 | ○ | 本事業は、「経済財政運営と改革の基本方針2022」、「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」、「デジタル田園都市国家構想基本方針」、「6年制課程における薬学部教育の質の保証に関するとりまとめ」等を踏まえ、現在求められている地域の医療ニーズに対応できる人材の養成を推進するものであり、適切かつ優先度が高い事業である。 |
| 事業の効率性 | 競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。 | ○ | |
| | 一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。 | 無 | 支出先の選定に当たっては、公募を実施し、第三者委員会で選定することにより、その妥当性及び競争性を確保する。 |
| | 競争性のない随意契約となったものはないか。 | 無 | |
| | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○ | 支出先の選定に当たっては、公募を実施し、第三者委員会で選定することにより、その妥当性を確保する。 |
| | 単位当たりコスト等の水準は妥当か。 | ○ | 交付決定・額の確定の際に、交付先から提出される申請書及び実績報告書等に基づいて、支出先・使途を把握し、妥当なコスト水準かを厳正に確認することとしている。 |
| | 資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。 | ○ | 経費の執行については、事業年度ごとに実績報告書等において、支出先・使途の把握、経費の使用状況等の確認に努める。 |
| | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | ○ | 交付決定時及び額の確定手続きにおいて、費目・使途の内容を厳正に精査し、支出の合理性・必要性について適切にチェックする。 |
| | 不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | - | - |
| 繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | - | - | |
| その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。 | ○ | 補助金の交付に当たっては、事業経費の費目・使途の内容について厳正に確認を行うなど、効果的、効率的な執行の観点からコスト削減に努める。 | |

| | | | |
|--|--|--|---|
| 事業の有効性 | 成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。 | ○ | 事業年度ごとに実績報告書等において、成果実績が成果目標に見合ったものとなっているか確認する。 |
| | 事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。 | ○ | 支出先の選定に当たっては、公募を行い、最も効果的・効率的に実施できる者を選定する。 |
| | 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 | ○ | 長期的な政策目標の実現に向け、定量的な活動指標を設定するなど、着実な活動実績の向上に向けて実施する予定。 |
| | 整備された施設や成果物は十分に活用されているか。 | ○ | 本事業における成果等については、ホームページや各種メディアへの掲載、選定・連携校間によるシンポジウム等を通じて活用の促進を図ることを予定。 |
| 関連事業 | 関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載) | - | |
| | 事業番号 | 事業名 | |
| | | | |
| 点検・改善結果 | 点検結果 | 本事業は、「経済財政運営と改革の基本方針2022」、「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」、「デジタル田園都市国家構想基本方針」等に盛り込まれた人材の育成を推進するものであり、我が国全体として必要とされる人材を計画的かつ確実に育成・確保する観点から、国が財政支援を行いながら強力で推進する必要がある。支出先の選定に当たっては、公募を実施し、第三者委員会で選定することにより、その妥当性や競争性が確保されることになっている。 | |
| | 改善の方向性 | 本事業の実施に当たっては、毎年度の進捗状況・取組実績等を報告書により確認するとともに、事後評価を実施し、評価結果を踏まえた事業内容の改善・定着、成果の普及・発信を行うこととする。 | |
| 外部有識者の所見 | | | |
| 外部有識者による点検対象外 | | | |
| 行政事業レビュー推進チームの所見 | | | |
| 事業目的の達成に向け、効率的な予算執行を図り、費用対効果の向上等に努めること | | | |
| 所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況 | | | |
| | | | |
| 備考 | | | |
| | | | |
| 関連する過去のレビューシートの事業番号 | | | |
| 令和3年度 | | | |

